

# 川 根 本 町

2024年10月号

# 図 書 室 だ よ り 10月

- ・文化会館図書室(小長井)
- ・山村開発センター図書室(上長尾)
- ・移動図書館車やまびこ号: 川根本町内6コース
- TEL: 0547-59-3106(文化会館)
- TEL: 0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間: 午前9時～午後5時
- ☆ 休室日: 月曜日・第3日曜日(20日)・祝日の翌日(15日)
- ☆ やまびこ号巡回6コース



かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。  
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

## 新着 図書



「川根本町インターネット図書室」では  
新刊の詳しい情報や 蔵書の検索が可能です。



川根本町  
インターネット  
図書室  
ホームページ



図書だより  
ブックナンバー



五百田達成著  
ディスカヴァー・トゥエンティワン



トリスタン・グーリー著  
エイアンドエフ



木平木綿 著  
Gakken



前野ウルド浩太郎著  
光文社

※所蔵状況 文 文化会館図書室 山 山村開発センター図書室

## 特集コーナー

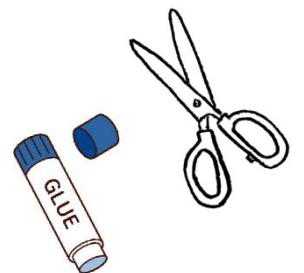
【9月・10月 山村開発センター図書室にて開催】



## おりがみ・工作を楽しもう

- ・脳の筋トレ!思い出しおりがみ
- ・12か月を楽しめるはじめての切り紙
- ・かんたん手づくり防災グッズ
- ・かんたんかわいいちぎり絵BOOK

ほか



裏面へ続く

## ◎ 新着図書

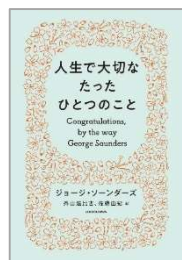
「川根本町インターネット図書室」では新刊の詳しい情報や蔵書の検索が可能です。

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>● 『あなたを待ついくつかの部屋』 角田光代 著 文藝春秋</p> <p>母に教わった「バーの味」、夫婦で訪れた憧れの上高地……。 全国3か所の帝国ホテルを舞台に織りなす、めくるめく部屋の物語。42編を収録。</p>	<p>● 『武田の金、毛利の銀』 垣根涼介 著 KADOKAWA</p> <p>上洛した織田信長に呼び出された明智光秀は、とある任務を下される。光秀は盟友の新九郎と愚息を伴って隠密裏に甲州へ向かう。駿河湾の港・田子の浦にたどり着いた三人は、そこで土屋十兵衛長安と名乗る奇天烈な男に出会い――。</p>
<p>● 『下町サイキック』 吉本ばなな 著 河出書房新社</p> <p>下町で生まれ育ったキヨカは幼いころから、目に見えないものが見える能力を持っていた。中学生になって、ご近所に住む友おじさんが運営する「自習室」の空間を、その力で清めるアルバイトをしていた。そんなある日、母と離婚して家を出た父が、自殺未遂を図ったという連絡が入って――。</p>	<p>● 『なぞとき』 畠中恵 著 新潮社</p> <p>さあさあ、皆で賭けをしようか！ 勝者は一つ、望みを叶えて貰えるって！ 若だんなど妖の謎解き合戦の始まりだ！！ あの屈強な佐助が血だらけになって、犯人は小鬼の鳴家だってえ？ 若だんなど長崎屋の妖達はすべての謎を解けるの～？ シリーズ第23弾！</p>
<p>● 『銀色のステイヤー』 河崎秋子 著 KADOKAWA</p> <p>「幻の三冠馬」と呼ばれた父馬・の血を引いて産まれたシルバーファーン。牧場長の菊地俊二は、ファーンの身体能力に期待をかけつつも、性格の難しさに課題を感じていた…。手に汗握る競走展開、人と馬の絆。ファーンが、騎手、馬主、調教師、調教助手、牧場スタッフ、取り巻く人々の運命を変えていく。</p>	<p>● 『赫夜』 澤田瞳子 著 光文社</p> <p>ある日、駿河国司の家人・鷹取は富士ノ御山から黒煙が噴き上がるのを目撃し、降り注ぐ焼灰にまみれて意識を失う。灰に埋もれた郷で盗難騒ぎが起こり、不安、怒り、絶望がはびこるなか、京から蝦夷征討のための武具作りを命じられる。平安時代、富士山延暦噴火。災害に遭った人々の苦悩と奮闘を描く。</p>
<p>● 『はまったら抜けだせない!? 食虫植物』 石倉ヒロユキ 編著 岩崎書店</p> <p>食虫植物の不思議で怪しい魅力が満載。</p> 	<p>● 『たいせつなたまご』 キッチンミノル 作 白泉社</p> <p>「たいせつなたまご」が私たちの食卓に届くまでを、生き生きとした写真とやさしいまなざしで伝えます。</p> 

## おすすめ図書

『人生で大切なたったひとつのこと』 ジョージ・ソーンダーズ 著 KADOKAWA

やさしさが足りなかった



【文化会館図書室所蔵】

人生で大切なたったひとつのことは何か？

著者はこの問いに答えるため、別の質問を自らに問います。「人生を振り返って、後悔していることは何か？」

著者は語ります。

42年後の今も頭を離れない記憶……。それは子供のころクラスに転校してきた女の子のこと。彼女は皆からほとんど無視をされ、からかわれ、傷つき、苦痛の表情を浮かべ、消えてしまいたいと思っているように見えた。そして、女の子の一家はある日引越していった。そこに悲劇はなく、別れ際にひどいいじめがあったわけでもない……。自分はひどいことは言わず、むしろ時にはかばいました。それでも、気になる……。

著者が人生でもっとも後悔しているのは「やさしさが足りなかった」ということだそうです。

派手な失敗や自らが恥をかいた記憶でもなく、このささいともいえる出来事への後悔。

そして、このささいさにこそ、ドキリ。

そう、そういう後悔、私にも沢山あります。「目の前に誰かがいて、その人が苦しんでいる。そのときに、わたしはどんなふうに応えたのか？」

自分の利益や気分を優先せずに、そこで立ち止まり、人の痛みを耳をかたむけることができたかどうか……。

そして著者はもう一つ問いかけ、答えます。

「あなたの人生で、いちばん温かい気持ちで、もっとも好ましい人として覚えている人はだれですか？」

それは……「あなたに対して誰よりもやさしかった人」そうではないですかと……。

意識してやさしくあるように努めたい。強くそう思いました。大学の卒業式でのスピーチを基にした15分で読める本書ですが、メッセージは非常に重たいと感じました。  
図書室スタッフS